

3 重点事業

放課後における子どもたちの学びの場の確実な設置 281,266千円
 (20 176,898千円)

<小学校>

※ 予算額には、高知市分は含まれていない

H20

放課後子ども教室
73ヶ所(内高知市9ヶ所)

放課後児童クラブ
126ヶ所(内高知市56ヶ所)

199ヶ所で実施
実施校率:65.7%
(163校/248校)

量

<小学校>

H21

継

実施校の拡大 199ヶ所→222ヶ所
(163校) (179校)

〇引き続き、すべての小学校で放課後子どもプラン(放課後子ども教室・放課後児童クラブ)の実施をめざします。



放課後子ども教室
94ヶ所
(内高知市9ヶ所)

放課後児童クラブ
128ヶ所
(内高知市67ヶ所)

<中学校>

新

「放課後学習室」の
設置 0ヶ所→17ヶ所

新たに重点校で
放課後子ども教室を実施
0ヶ所→17ヶ所(内高知市2ヶ所)

新

学び場の充実 0ヶ所→152ヶ所

～放課後における子どもたちの学び場の確実な設置～



数学・英語を中心とする
基礎的な学習を行う。

<見込まれる成果:小学校>
 〇宿題を毎日する
 〇異年齢の集団で遊ぶ
 〇生活・学習習慣が身に付く

<内容>
 〇学びの場の修繕や備品整備
 〇図書や教材等の配布
 〇講師やボランティア等の配置

<見込まれる成果:中学校>
 個別指導による
 〇基礎基本の定着
 〇自主学習の習慣化

質

新

人材バンクの創設 6,367千円

- 〇学習活動を支援する講師の発掘・登録
- 〇市町村への情報提供



高知市への緊急支援事業

54,808千円 (中学校学習習慣確立)
(20 0千円) 緊急支援事業費補助金)

現状

◆本県公立中学校の生徒数の37%を占める高知市立中学校(全19校)の家庭学習の未定着状況は深刻である。

※学校の授業以外に普段、全く勉強をしていない生徒の割合は

全国平均の約2倍 <高知市(15.8%) 全国(7.7%)>

※家で学校の宿題を全くしていない生徒の割合は

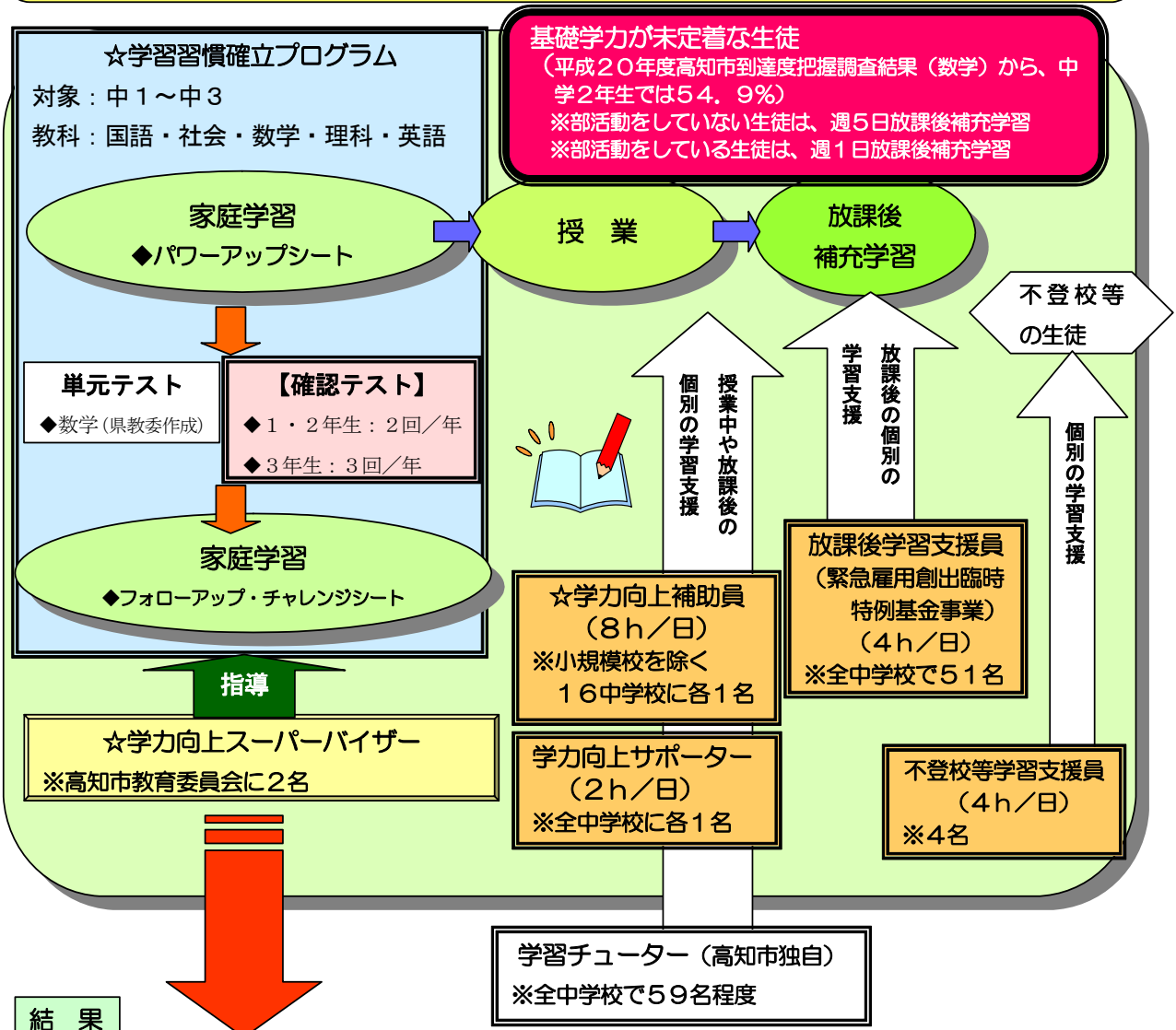
全国平均の約3倍 <高知市(15.7%) 全国(5.7%)>

[平成20年度全国学力・学習状況調査]

家庭学習の習慣化を図る

対策

- ◆毎日宿題(業者作成学習シート)を与え、学校で点検・添削する取組を繰り返し、学習の習慣化を図る。
- ◆確認テストや単元テストで学習内容の定着度を把握する。
- ◆「学力向上補助員」「学力向上サポーター」「放課後学習支援員」「不登校等学習支援員」が生徒の学習を支援する。(あわせて県費で90名配置)



結果

高知市において、授業以外に全く勉強しない中学生や家で宿題を全くしない中学生の割合が全国並みに減少し、3年後には高知市の中学生の学力が全国水準となる。

<本県の子どもたちの体力・運動能力の現状>

平成 20 年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

体力合得点 小学校男女 47位 中学校男子 45位 女子 46位



子どもたちの健やかな体を育むために 運動習慣の確立

戦略① 運動習慣を身に付ける

子どもの体力向上支援事業 2,425 千円

データ分析による課題の明確化

(20 0千円)

体力向上検討委員会

- ① データ分析
- ② 課題の明確化
- ③ 課題解決に向けた方向性

連携

体力向上に向けた具体的方法の共有化

体力向上プログラム作成委員会

- ① プログラムの作成
- ② DVDの製作
(小・中・高校配布)



効果的な実践事例情報の提供

地域と連携した実践

県内 3 市町村で体力向上
に向けた取組実践

- 体力向上プログラムを活用した体育授業や体育的活動を行い、身体能力が向上する。
- データ分析による課題や実践事例を参考に体力向上に向けた指導計画を立てて実践できる。

学校は
こうなる!

戦略② 動きたくなる意欲を育てる

トップアスリート夢先生派遣事業 1,170 千円

夢先生

プロスポーツ選手
トップアスリート
メダリスト など

(20 0千円)

「夢の教室」

■ 小学校のプログラム

<前半>

1. オープニング
2. 準備運動 (10 分)
3. ボールを使ったゲーム (20 分)



<後半>

1. 夢先生のトーク (20 分)
2. みんなの夢 (15 分)
3. 夢先生からのメッセージ (10 分)
4. エンディング (10 分)

■ 中学校のプログラム 講演等 (50 分程度)



県内 36 小中学校
「夢の教室」実施

学校は
こうなる!

○ トップアスリートの生き方を学ぶ中で、子どもたちが夢に向かって頑張ろうとしたり、運動やスポーツをしようとしたりする意欲が高まる。
○ 運動やスポーツの持つ効果を学ぶことで、日々の授業に活用しようとする 学校が増える。

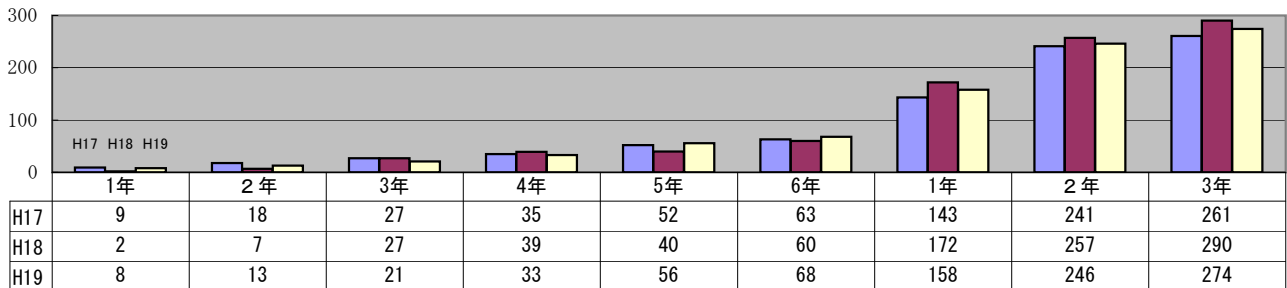
結果

各学校において体力向上に向けた取組が充実し、児童生徒の望ましい運動習慣が確立され、体力・運動能力が全国水準となる。

不登校・いじめ問題等の主要課題への集中対応
不登校・いじめ等対策小中連携事業

16,596千円
(⑩ 0千円)

不登校児童生徒の状況



取組内容

中1段階への集中的な対応

中学校区における具体的な取組

中1ガイダンスの充実

- 入学時のオリエンテーション
- 中1仲間づくり合宿 など



互いの良さを認めあう学級づくり

- Q-Uアンケートの実施（2回）
- 入学早期の人間関係づくり など



中学校区連絡会議

- 個人カードの作成
- 小中学校教員の授業交流 など



不登校等学習支援員の配置

（高知市4名、3市各2名：1日あたり4時間）
不登校等で授業に参加できない生徒への個別の学習支援



市町村教委・教育研究所(コーディネータ)

市町村連絡会議

広域支援会議

県教委・サポートチーム

結果

小中学校の連携が強化され、継続的な取組を行うことにより、中1生徒がスムーズに中学校生活をスタートできる。

また、不登校等の生徒への学習支援を行うことにより、学力保障ができる。
これらのことにより、問題行動等が減り、3年後には発生率が全国水準にまで改善される。

乳幼児期の親への支援の強化

22,214千円
(20241千円)

現 状

【教育課題】

- ・学力の低下
- ・いじめ・不登校 など

【背景】

- ・自尊心の低下
- ・コミュニケーション能力の低下
- ・規範意識の低下

【県民のニーズ】

出典：県民世論調査(H19.2)

子育てにかかる経済的支援のニーズが高い

- 1位 教育費の負担軽減(61.7%)
- 2位 保育料の軽減(61.3%)

【主因のひとつ】

親の子育て能力の低下
(子どもを愛しいと思う深い愛情の希薄化)

《国の保育料等軽減措置》

		H20	→	H21
保育所	同時入所の第2子	半額	→	半額
	同時入所の第3子	0.1	→	無料
幼稚園	同時入所の第2子	0.7	→	0.5
	同時入所の第3子	0.2	→	無料
兄 姉	同時入所の第2子	0.9	→	0.9
	同時入所の第3子	0.8	→	無料

※同時入所とは：兄姉が保育園児又は幼稚園児等であること

思春期になって親子が苦しまないために

対 策

親育ち支援の強化

- 愛着(身近な大人との強い信頼関係)形成 →よりよい親子関係の構築
- 生きる力の基礎(主体性・基本的な生活習慣・人とかかわる力など)を培う

情緒の安定と情操の発達

愛着形成

自主性の発達(意欲を含む)

主体性

適応能力の発達(社会性を含)

人とかかわる力

知識の習得

人格形成のプロセス
『登校拒否児』新曜社
平井信義 著 参考

18歳未満の子が3人以上の場合、
第3子3歳未満児の保育料を無料化(軽減)

3歳未満入所者数に対する第3子の割合
(保育所での推計)

同時入所の場合 3.6%

18歳未満 " 17%

拡大

<H21> 20,092千円

新規

多子世帯保育料軽減
事業費補助金の創設

<対象施設>保育所・幼稚園・認可外保育施設
<補助先>市町村(高知市除く)
<補助率>1/2

(例)

保育料が
無料化
(軽減)!



3歳未満の園児 小学生 中学生

<H21> 2,122千円

新規

親育ち支援
啓発事業 55回
(教育的な観点)
親育ち支援チーム結成

子育て支援
アドバイザー派遣事業
40回(保健分野の観点)

拡充

結 果

“心の居場所”ができ、次のような子どもに成長する
・物事に主体的に取り組み最後までやりぬく
・思いやりを持って人とかかわる など

・多子世帯の経済的負担が軽減される
・施設間の公平性の向上が図られる

心のゆとり

子どもが育つ環境が整えられる

教育課題の根本的な解決